

たぬしまるこふんぐん  
1 田主丸古墳群 4 基

種 別：史跡（平成 14 年 3 月 19 日 国指定）

所 在 地：久留米市田主丸町石垣ほか

アクセス：田主丸大塚古墳 JR 久大線田主丸駅より車で 5 分

寺徳古墳 西鉄バス 「森山」下車徒歩 4 分

中原狐塚古墳 " 「中原」下車徒歩 5 分

西館古墳 " 「麦生」下車徒歩 12 分

史跡田主丸古墳群は、田主丸大塚古墳・寺徳古墳・たぬしまるのおつかこふん 中原狐塚古墳・じとくこふん 西館古墳なかぼるきつねつかこふん にのしたて古墳こふん の 4 基から構成されます。

1-1 田主丸大塚古墳は、江戸期に活躍した久留米藩の学者、矢野一貞が著した『筑後将士軍談』に「山辺街道の南側にあり、当国第一の大塚という。其窟門くつもんの所在未だ詳らかならず」とあります。墳丘確認調査の結果、墳丘全長 103 メートル、後円部の直径 60 m の前方後円墳であることが確認されました。後円部西側には造り出しがあり、東側部分では、幅約 10 m の周溝が廻ります。6 世紀の後半から末にかけての築造と見られます。

寺徳古墳・中原狐塚古墳・西館古墳は、装飾古墳そうしよくこふんとして知られ、いずれも 6 世紀後半の築造と見られます。

1-2 寺徳古墳は直径 18m 程の円墳です。石室は入口を西側に向ける複室構造の横穴式石室で、玄室から前室にかけての壁面に赤 2 種と緑の顔料により壁画を描きます。描かれた図文は、同心円文・円文・三角文等の幾何学的な図形を中心としますが、一部には盾・舟？等の具象的な図文も配されます。特に同心円文は大型で、最大のもの径 60cm を測ります。

1-3 中原狐塚古墳は墳丘の盛土がほとんど流出してしまい、石室石材が露出する状況にあります。周辺部の調査によると本来直径 19 m の円墳であったと考えられます。石室は複室構造の横穴式石室で、玄室前壁と羨道の一部を失いますが、内部に描かれた壁画は比較的良好に保存されています。使用された顔料は赤 2 種と緑、青で、玄室から羨道にいたる広い範囲に多様な図文が描かれます。壁画は、同心円文・三角文を中心としつつも、鞍ゆげ（矢筒）・轡とも・舟・人物・動物等の具象的な図文を配しています。特に鞍

については数多く描かれ、表現も多様です。石室内からの出土遺物に弓の金具や、鉄鏃てつぞくが多いことも合わせて、この古墳に葬られた人物を推測する重要な要素と言えます。

1-4 西館古墳は長径 14m、短径 10.4m のやや楕円形をした古墳です。墳丘外表面には葺石が確認されています。石室は複室構造の横穴式石室で、玄室奥壁と玄門前室側右袖石そでいしに壁画が描かれます。使用する顔料は赤と緑の2色で、同心円文、三角文、人物、舟等を描きます。

奥壁の壁画は、中央に人物、その右上には連続三角文とゴンドラ型の舟、右下と左側には同心円文を配します。また、玄門右袖石には赤一色で奥壁とは意匠の異なる舟が描かれます。

現在、寺徳古墳・中原狐塚古墳・西館古墳はいずれも装飾の保護のため、石室内部の公開は行っていません。

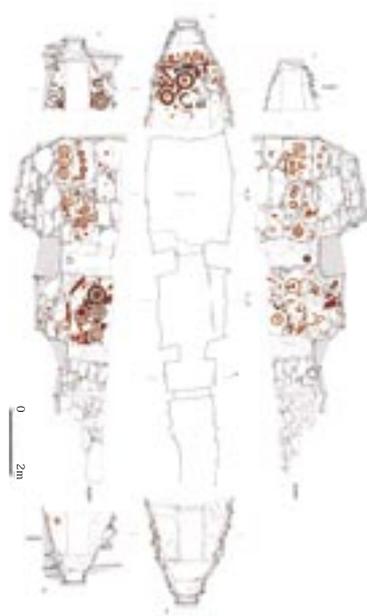


田主丸大塚古墳



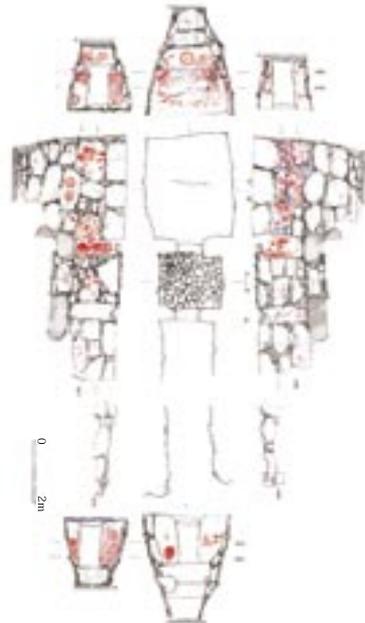
寺徳古墳奥壁

寺徳古墳石室実測図



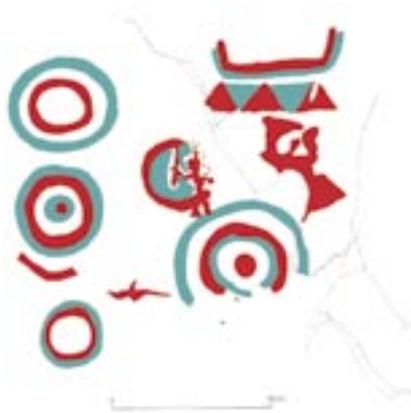
中原狐塚古墳玄門から奥壁

中原狐塚古墳石室実測図





西館古墳奥壁



西館古墳奥壁装飾

## 2 装飾古墳石材

種 別：有形文化財 考古資料（平成 8 年 5 月 29 日 市指定）

所 在 地：久留米市田主丸町田主丸 507-1 総合支所内

アクセス：西鉄バス「浮羽工業前」下車徒歩 3 分

田主丸町石垣字清長橋に所在したとされる消滅古墳の石材で、同地にあったと伝わる、装飾古墳「清長橋古墳」の石材と推定されます。

現在 2 石が保存されており、その内大型の石材には円文 4 個と同心円文 1 個、三角文 1 個が確認できます。また、石材中央部にも赤色顔料の付着が見られますが、この石材が過去に庭石として運び出された際についたと見られるワイヤーの擦過痕により、図文の判定は難しい状態です。

なお、一説によると騎馬人物が描かれていたとも伝わります。また、もう一つの石材には同心円文が 2 個確認できます。





もりべひらばるこふんぐん  
3 森部平原古墳群

種 別：史跡（平成4年9月2日 県指定）

所 在 地：久留米市田主丸町森部字笹ヶ谷他

アクセス：JR久大線田主丸駅下車 車で10分

耳納山地の中腹、標高200m前後の斜面上に立地します。周辺は平原古墳公園として整備されており、敷地内に「県立ふれあいの家北筑後」があります。森部平原古墳群は現在70基（内58基県指定）が確認されており、多くが直径10m前後の小規模な円墳で、石室は主にふくしつこうぞう複室構造のよこあなしきせきしつ横穴式石室を採用しています。石材は、周辺で産するかこうがん花崗岩が利用されており、石室の平面形は胴張りで長辺がやや膨らんだ隅丸方形、あるいは、しやみせんどうがた三味線胴形をしています。側壁は内側にせり出しつつ石材を積んでいく持ち送り技法が用いられ、天井石には比較的小振りの石材が使用されています。

森部平原古墳群についての調査としては、道路改修の関係で群中の1基について石室実測調査が行われたのみです。遺物も、故田中幸夫氏資料（九州歴史資料館蔵）の長頸壺と、故金子文夫氏採集の杯身2点（うきは市吉井歴史民俗資料館蔵）の計3点が知られるのみです。



『筑後将士軍談』掲載図

よこはぎいたびょうどめたんこう  
4 横矧板 鉾留短甲

種 別：有形文化財 考古資料（平成 11 年 3 月 15 日 市指定）

所 在 地：久留米市田主丸町石垣 889 水縄小学校

アクセス：JR 久大線田主丸駅下車 車で 5 分

古墳時代の鎧で、短甲とは鉄板を鉄鉾や革紐で綴じつけて固定し、人体の胴部を覆うだけの物で、主に歩兵が使用したと考えられています。この資料は、後胴に当たる部位で、豎上三段、長側四段に、鉄鉾で綴じつけており、5 世紀前葉から 6 世紀にかけてのもと考えられます。

また、この短甲については矢野一貞が記した『筑後将士軍談』に詳細な観察図が掲載されています。



## 5 木造毘沙門天立像

種 別：有形文化財 彫刻（平成 11 年 3 月 19 日 県指定）

所 在 地：久留米市田主丸町石垣 275 観音寺

アクセス：JR 久大線田主丸駅下車 車で 5 分

平安時代末から鎌倉時代初めの作。像高 96.0cm。桧材一木造。

甲冑かっちゅうに身をかため、左手に宝塔を掲げ立つ毘沙門天立像です。毘沙門天は、持国天・增長天・広目天と共に四天王に数えられる北方守護の多聞天のこたもんてんとです。背板を外すと胎内に墨書銘があり、「佛師□□□□阿闍梨」とわずかにみえますが、名前の部分ははっきりしません。また、背板裏にも「石垣山常住（梵字）毘沙門天」とあります。

なお、足部の沓及び邪鬼は後補で、邪鬼台裏に「延宝二（1674）甲寅十一月十八日、奉再建多聞天石垣山本房常住住持良周謹誌」とあります。

また、肩部や背面を中心に、虫害等による傷みが著しかったことから、平成 13 年度に修復が行われました。



もくぞうよいりんかんのんざぞう  
**6 木造如意輪観音坐像**

**種 別：**有形文化財 彫刻（平成11年3月15日 市指定）

**所 在 地：**久留米市田主丸町牧 牧八幡宮

**アクセス：**西鉄バス「牧」下車徒歩6分

木造の如意輪観音座像で牧八幡宮境内に祀られ、今も地域の人たちの香花が絶えません。伝えによれば、もと菅原の伯東寺に安置されていたものとされます。

一木造で、高さは86cm、巾(膝張)55.4cm。手の一部、光背等は後補です。台座裏に補修銘が残り、明和7年(1770)に「彩色」、天保6年(1835)に「庄屋 井上市郎平永重」らによって「再彩色」なされたことが分かります。

像自体はその様式から室町時代の作と考えられます。



## 7 <sup>りんぞう</sup>輪蔵 付 経蔵

種 別：有形民俗文化財（昭和46年2月18日 県指定）

所 在 地：久留米市田主丸町菅原 1415 伯東寺

アクセス：西鉄バス「牧」下車北へ徒歩 30 分

輪蔵とは蔵自体が回転式の経書収納庫になっているもので、六角形の輪蔵はすっぽり経蔵の内部に入っています。

輪蔵の中には「<sup>てつがんばんいっさいきょう</sup>鉄眼版一切経」が収められています。一切経とは積尊一代の教説と印度・中国の高僧達の論説とを集録したもので、社会全般について説き記されており学僧達の学寮において最も必要なものでした。

この一切経は江戸前期の<sup>おうぼくしゅう</sup>黄檗宗の鉄眼禅師が版木6万枚に制作したもので明朝書体最初のもので、伯東寺所有の一切経は、6959巻の経本があります。

本来、太宰府天満宮安楽寺にあったとされるこの輪蔵は、心柱の銘により、<sup>きょうほ</sup>享保14年(1720)の製作であることがわかります。また、明治16年(1883)に肥前国養父郡蔵上村西法寺より譲渡された旨の記述もあります。

## 8 石垣神社の石造鳥居 付 新宮社記録

種 別：有形文化財（平成 19 年 8 月 20 日市指定）

所 在 地：久留米市田主丸町石垣 68-1

アクセス：JR 久大線田主丸駅下車 車で 5 分

石垣神社参道に立つ石造明神鳥居で、石材は山北石が使用されます。柱は 3 材で構成され、貫も 3 材、笠木・島木は一体でこれも 3 材から成ります。表面に「新宮社 良山僧正書」と記された額束付きで、裏面には「寛政 3 辛亥年 八月吉祥日」と陰刻されています。

鳥居の建立年代は左側の柱に「明暦元年乙未」とあり、明暦元年（1655）建立と考えられます。これは、石垣神社所蔵の『新宮社記録』によっても裏付けられ、額束の落下と寛政 3 年（1791）の修理についても記述が見られます。

この鳥居は、久留米藩三代藩主有馬頼利（幼名松千代）の息災と武運長久を当社にて祈祷し、その御願成就として三郡より寄進し建立されたと伝わります。このことについては、鳥居の右側の柱に「…松千代君様御武運長久息災延命也」という銘があります。建立年代から見ると、久留米市内においては、北野天満宮、大善寺玉垂宮の鳥居に次ぐものであり、国指定有形文化財である高良大社の大鳥居と同年の建立です。高良大社の大鳥居の石材は、竹野郡石垣村の石垣山から運ばれたとされており、石垣神社と高良大社の密接な関連をうかがわせます。

『新宮社記録』は、石垣観音寺住職亮澄が、石垣観音寺の古記録の中から石垣神社関係の記事を抄録したもので、明治 32 年（1899）神社に奉納されたものです。





せきしょぎょうひ  
9 石書経碑

種 別：有形文化財 歴史資料（平成 11 年 3 月 15 日 市指定）

所 在 地：久留米市田主丸町秋成 963 法音寺

アクセス：西鉄バス「徳童」バス停下車徒歩 4 分

塔の一面には「石書経王銘并序」と読める陰刻<sup>いんこく</sup>があり、その背面には「当寺五世了天口誌之<sup>きょうわ</sup> 享和元年酉年七月十六日 施主 恕庵 倉富胤將<sup>くらどみたねまさ</sup>」の文字が読み取れます。また、左側面には 3 行の文章があり、主文は右側面に刻まれた 4 行 16 字、総計 64 文字からなる碑文です。「八大龍王河伯水族・・・」等の文字により、享和元年（1801）に洪水で人的にも大きな被害を出した徳童村では、その再発を防ぐために村民から喜捨を募り、水害をもたらす河童の荒ぶる霊を慰めるため同年 7 月にこの石塔を建立しました。そしてその中心となったのが倉富胤將ということが読み取れます。



## 10 <sup>やなせ</sup>柳瀬 <sup>ししまい</sup>おくんち獅子舞

**種 別：**無形民俗文化財（平成 5 年 7 月 7 日 市指定）

**所 在 地：**久留米市田主丸町八幡 玉垂命神社

**アクセス：**西鉄バス「牧」バス停下車 車で 5 分

毎年、10月9日社前において午後7時より約1時間行われます。また、同日は早朝より氏子およびその付近各戸においても舞います。

使用される獅子は、獅子頭は木製、胴は棕梠皮しゅろがわを用いた写実的なものです。舞子は二人で一人が頭を、もう一人が胴と尻尾を操り、あたかも生きているような舞い方をします。棕梠皮獅子の由来は不明ですが、田主丸町恵利の八幡神社、原の天満宮、石垣の石垣神社、朝倉市の美奈宜神社などに類例が見られます。

## 田主丸の河童

田主丸町は、古くより河童伝承の集中する地域として知られています。河童は常に人々の生活と共にあり、様々な表情の河童の石像が配された雲雀川にかかる橋や、河童の顔をした JR 田主丸駅舎など、現在でも町の各所に河童を見出すことができます。

### くまのじんじゃ もくぞうかっぱ ぞう 11 熊野神社の木造河童像

種 別：有形民俗文化財（平成 11 年 3 月 15 日 市指定）

所 在 地：久留米市田主丸町志塚島 熊野神社

アクセス：西鉄バス「門ノ上」バス停下車徒歩 3 分

「志床の川ん殿の像」とも呼ばれます。

この小像は、両足を平行にかなり大きく開いて直立します。両手を腰に当てて左右に両肘を張った姿勢をとり、おかつぱを思わせる髪型をした頭の頂には窪みがあります。そして歯を食い縛って大きく左右に開いた口と、眉をしかめ何かを見据える大きな両目が精彩を放っています。

この憤怒の形相は、隆々たる全身の筋骨と併せて新烈な印象を与えます。全体として、彫りは古拙ながら緊迫感のある怨霊の像を表しています。



### みやじだけじんじゃ せきぞうかっぱ ぞう 12 宮地嶽神社の石造河童像

種 別：有形民俗文化財（平成 11 年 3 月 15 日 市指定）

所 在 地：久留米市田主丸町船越 老松神社

アクセス：西鉄バス「殖木」バス停下車徒歩 13 分

小川の宮地嶽神社境内の摂社である石祠の壁面にレリーフされています。本来は木像であったものが、明治 22 年 (1889) の大洪水の折、石祠だけを

残して流出してしまいました。そのため、再度の流失を恐れ、村人の記憶に忠実に石に像影を再現したとされます。

石祠の扉には「水神社」、左側面には「享<sup>きょう</sup>和元（1801）辛酉十二月」右側面には「氏<sup>わ</sup>子中」の銘がある。

### 【えんどう河童の伝承】

馬にいたずらした河童が、えんどうのつるに足をとられて村人に取り押さえられた。河童曰く「河童大明神として祀り、えんどうの炒ったものを供えれば、この部落の者を水難から救う」と。以来、河童大明神として祀り、えんどうを供えると水難にあうことはなくなったという。



## 13 素<sup>す</sup>蓋<sup>さ</sup>鳴<sup>のおじんじゃ</sup>神社の木造<sup>もくぞう</sup>河童<sup>かっぱ</sup>像<sup>ぼぞう</sup>

種 別：有形民俗文化財 平成 11 年 3 月 15 日 市指定

所 在 地：久留米市田主丸町志塚島 素蓋鳴神社

アクセス：西鉄バス「唐島」バス停下車徒歩 10 分

「唐島<sup>かわしま</sup>の川<sup>かわ</sup>ん殿<sup>どの</sup>さん」ともいわれるこの像は、やせ細って目が落ち窪み、どこか悄然とした面持ちがあります。特に、剃髪したその頭は、筑後地方で平清盛に擬せられている河童の頭目「巨瀬<sup>こせ</sup>入道<sup>にゅうどう</sup>」の頭を連想させます。この河童像は水神の信仰が河童ならびに平家伝説と結びついて複合した後の時代の作品であると見られます。



## 田主丸の天然記念物（樹木）

### 14 あんちょうじ いちょう安超寺の銀杏

種 別：天然記念物 平成2年5月11日市指定

所在地：久留米市田主丸町森部 719-1

アクセス：JR 久大線田主丸駅下車 車で10分



### 15 あそじんじゃ くす阿蘇神社の樟

種 別：天然記念物 平成2年5月11日市指定

所在地：久留米市田主丸町地徳 2808

アクセス：西鉄バス

「森山」バス停下車徒歩10分



### 16 はちまんじんじゃ くす八幡神社の樟

種 別：天然記念物 平成2年5月11日市指定

所在地：久留米市田主丸町恵利 1173

アクセス：田主丸より甘木観光バス

「両筑橋」バス停下車徒歩16分



### 17 かんのんじ観音寺のハルサザンカ

種 別：天然記念物 平成2年5月11日市指定

所在地：久留米市田主丸町石垣 275

アクセス：JR 久大線田主丸駅下車 車で5分



ひよしじんじゃ くす  
18 日吉神社の樟

種 別：天然記念物 平成 5 年 7 月 7 日市指定

所在地：久留米市田主丸町上原 476

アクセス：西鉄バス

「門の上」バス停下車徒歩 4 分



じょうぎょうじ  
19 常行寺のモッコク

種 別：天然記念物 平成 8 年 12 月 21 日市指定

所在地：久留米市田主丸町豊城 1295

アクセス：西鉄バス

「下田主丸」バス停下車徒歩 6 分



ほうりんじ くす  
20 法林寺の樟

種 別：天然記念物 平成 8 年 12 月 21 日市指定

所在地：久留米市田主丸町田主丸 214-4

アクセス：西鉄バス

「田主丸中央」バス停下車徒歩 5 分



もりじゅもくぐん  
21 くじらの森樹木群

種 別：天然記念物

平成 15 年 5 月 12 日市指定

所在地：久留米市田主丸町秋成 975

アクセス：西鉄バス

「徳童」バス停下車徒歩 4 分





## 22 ヒナモロコ

**種 別**：天然記念物（平成7年6月22日市指定）

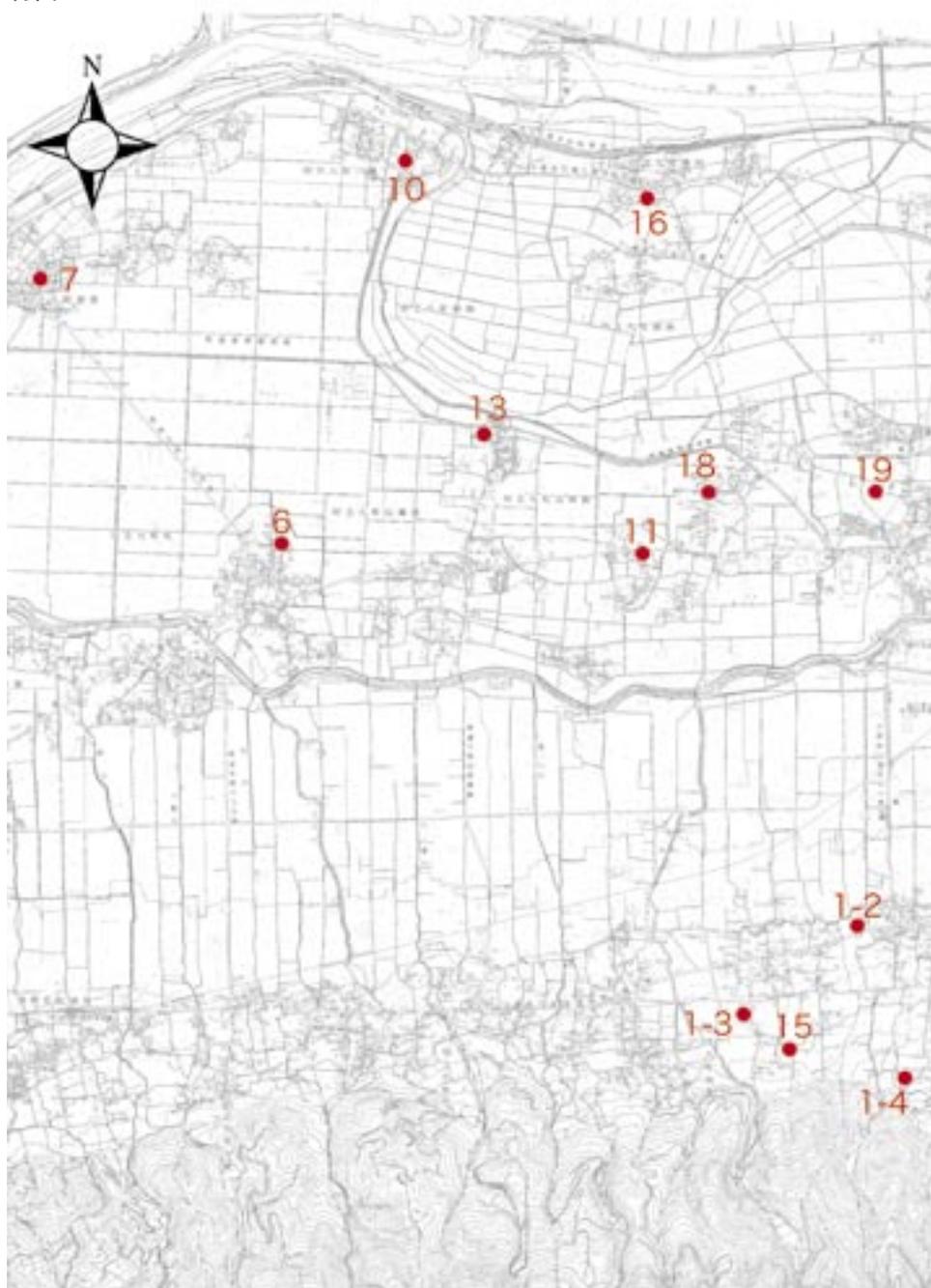
**所 在 地**：久留米市田主丸町域の生息可能な河川

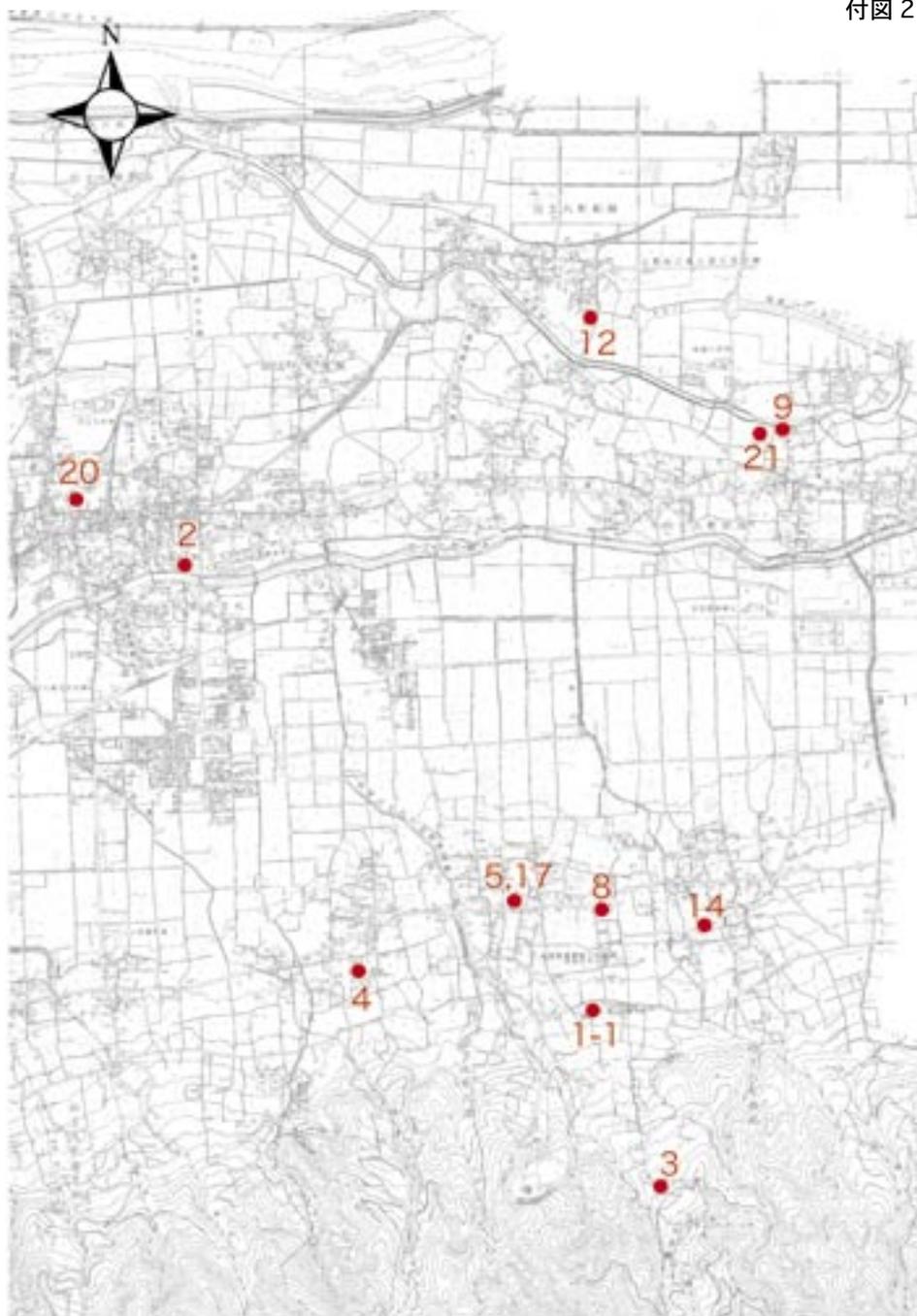
**見学できる場所**：田主丸総合支所・筑後川発見館くるめウス

コイ科に属する淡水魚で、全長6～7cmほどの小さな魚です。分布の範囲は北部九州と朝鮮半島・中国大陸に限られており、大陸と九州が地続きであった時代の痕跡を示すものであるとされます。

ヒナモロコは現在、田主丸町以外では生息が確認されておらず、環境省の絶滅危惧ⅠA類に登録されています。

付図1





## 23 北野天満宮の文化財

所在地：久留米市北野町中 3267

アクセス：西鉄甘木線北野駅下車徒歩 3 分

北野天満神社は、天喜<sup>てんき</sup> 2 年 (1054)、関白藤原道隆の孫貞仙僧正によって、京都の北野天満宮の神領である筑後国河北荘の鎮守社として、この地に勧請されたといわれています。盛時には末社 75 ケ所、寺院社家 28 ケ所を数えたといえます。

源平の争乱による社殿の破壊、戦国時代の兵火による焼失を経て、永正<sup>えいしょう</sup> 15 年 (1518) 山本郡吉木の城主草野長門守重永によって再建され、承応<sup>じょうおう</sup> 3 年 (1654) 久留米藩二代藩主有馬忠頼が社殿を改築し、明和年間に潤色され今日の天満神社ができあがりました。

同社には、県指定となった「鰐口<sup>わにぐち</sup>」などを始め、足利家からの御教書等、その歴史を物語る資料が残されています。

### 23-1 北野天満宮の大樟

種別：天然記念物 昭和 33 年 11 月 13 日 県指定

境内の御神橋（そり橋）を渡ると、そのもとに御池をおおうように繁り、参拝者を迎えてくれます。特に地上 2.5 メートルより二股となり、根本のふくらみは顕著で、その特異性を誇っています。

根本周囲 22.0 m、枝張り東へ 11.0 m、樹高 17.5 m。





きたの てんまぐうせきぞうとりい  
23-2 北野天満宮石造鳥居

種 別：有形文化財 建造物 昭和 37 年 7 月 26 日 県指定

境内の神門前、県指定天然記念物の大樟のそばにあります。

「肥前鳥居」で、銘により慶長 12 年 (1607) の作と分かります。高さ 4.01 m、両柱間隔 2.5 m 笠木の長さ 5.35 m。凝灰岩製で、笠木・貫・柱いずれも三部分を継ぎます。上部は軽快で、下部は重厚、均整が取れた上作といえます。銘は、第一行不明。第二行「岩慶長拾貳丁未歳□月廿五日三井郡・・・」。第三行「大工・・・左衛門・・・」とあります。



### 23-3 どうせいわにくち銅製鱈口

種 別：有形文化財 工芸品 昭和 37 年 4 月 19 日 県指定

鱈口とは、仏教鳴具の一種で金鼓・金口ともいいます。神仏の堂前につるす銅製の具で、中空扁平で下方に横長に口があり、表裏両面の中央には複弁八葉の蓮華文を鑄だして撞座を作り、それをめぐって四条の凸があります。その間には銘文が刻まれています。これにより享祿<sup>きょうろく</sup>4年(1531)、「関西路筑之後州河北野庄天満宮」に「檀那草野中務少輔藤原朝臣親永」等が奉納し、「灰塚左馬助秀家」が鑄造したもの(一部不明)ということが分かります。



ちくごのくにきたのてんじんえんぎ  
23-4 筑後国北野天神縁起

種 別：有形文化財 絵画 昭和 37 年 7 月 26 日 県指定

この三巻からなる縁起は、題箋に『絵入御縁起』と記され、江戸時代末の作と考えられます。第一巻は菅原道真の生涯、第二巻は神霊の活躍、第三巻は、社寺の創建・靈験となっています。絵・詞はともに稚拙ではあるが、所々にユーモラスな描写が見られます。

第三巻の巻頭には、筑後国河北荘（現在の北野町付近）に荘園鎮守の神として天喜<sup>てんき</sup>2年（1054）関白藤原道隆の孫に当たる貞仙僧正が後冷泉天皇の勅を奉じて社殿を造営したことや由緒・靈験・利生等、この社独自の縁起が記されています。



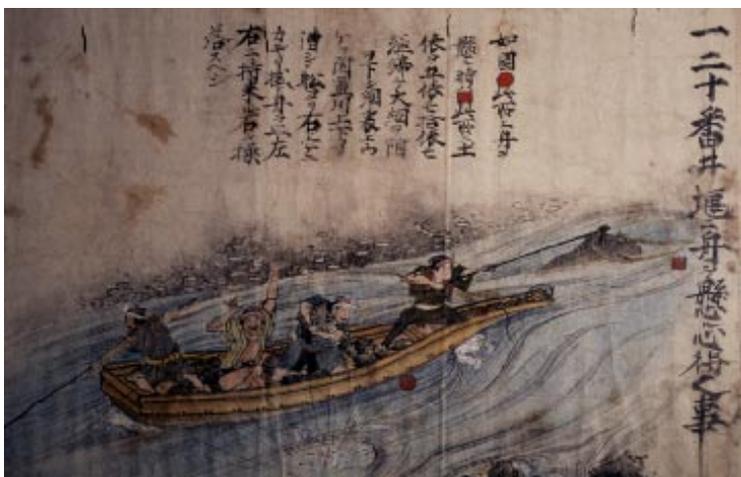
きたの てんまんじんじゃしんこうぎょうじ  
23-5 北野天満神社神幸行事

種 別：無形民俗文化財 昭和 38 年 1 月 9 日 県指定

北野天満宮の祭礼の中で最も盛大豪華なものが「おくんち」と呼ばれる神幸行事です。期日は、10月19日（近年は10月の第3日曜日）。当日は筑後一円からの参拝者で賑います。

祭礼には、風流が奉納され、御神輿の行列や大名行列が町筋を通り、沿道は人の波で埋まります。

風流は河童を慰めるために奉納され、また大名行列は藩政時代に久留米藩主有馬公が天満宮に参拝した時の行列を模して、明治以降、氏子が受け継いだものです。



とこしまげきちくぞう え ず  
 24 床島堰築造絵図

種 別：有形文化財 絵画 平成 5 年 11 月 17 日 市指定

所 在 地：久留米市北野町金島 457 専称寺

アクセス：西鉄甘木線金島駅下車徒歩 1 2 分

作者・製作年についての詳細は不明ですが正徳年間（江戸中期）に描かれたものと推定されます。

正徳<sup>しょうとく</sup>2年（1712）に完成した床島堰築造工事に際して、各部分の作業の仕方についての要点を絵に描き、簡単な説明書きをしたものであります。現存するものは 14 枚であるが、その中に四十八番までは番号と簡単な説明書きがあるので少なくとも 48 枚はあったものと思われます。

絵図には、用水溝を掘る場合に、水当てが強くて崩壊しやすい部分の工事の心得や、水汲みの際の器具の仕掛け方、材木や石など重い物の運搬の器具や要領が描かれています。



よしづみいし  
25 良積石

種 別：史跡 平成 5 年 11 月 17 日 市指定

所 在 地：久留米市北野町赤司 1218-1

アクセス：西鉄甘木線大城駅下車徒歩 20 分

元慶<sup>がんぎょう</sup>7 年（883）筑後国司であった「都御西」<sup>みやこのみどり</sup>暗殺事件を解決した藤原良積の墓と伝えられ、このため「良積石」と言われています。高さ 92cm 程の自然石で、表裏に梵字が刻まれ、「貞和<sup>じょうわ</sup>五年（1349）」の銘があります。久留米藩の学者矢野一貞は著書『筑後将士軍談』で「御西」の墓とも考察しています。銘の年号も事件の年代と合わず石碑の詳細は不明な点が多いですが、北野町内で最も古い石碑であり、上述のユニークな伝承を持っています。



## 26 <sup>くろいわけ</sup>黒岩家のモチノキ

種 別：天然記念物 平成 8 年 5 月 16 日 市指定

所 在 地：久留米市北野町高良

アクセス：西鉄甘木線北野駅下車徒歩 15 分

正式名称を「クロガネモチ」といい、人里にはよく見られる樹木です。  
樹齢については不詳。約 400 年位と推定されます。

付図 3

